



ひとりの声を大切に！

高山豊彦(とよさん通信)

第13号



2022年(令和4年)春号

発行責任者：高山豊彦 TEL/FAX：0774-78-2935

E-mail：toyohiko.takayama3272@gmail.com

WEBサイト：<https://www.komei.or.jp/km/takayama-toyohiko-wazuka/>

令和4年度がスタートし、新型コロナウイルスの感染症が未だ収束しない中、ウクライナ情勢に伴う食料品など物価の高騰により、私たち住民生活への対策が求められる。一方、本町においては住民の皆さまの悲願でもある「(仮称)犬打峠トンネル」の和束町側からの掘削工事が着工されることとなり、本町の新たなまちづくりに期待が寄せられているところです。

今号では、第1回定例会で審議された、令和4年度の主な予算や一般質問等の内容をお知らせいたします。



令和4年度予算



◆ 一般会計予算 34億4500万円 ◆ 特別会計 19億3740万円

【主な事業】

◎保健・医療体制の充実・・・2億3012万8千円

・総合保健福祉施設整備事業（設計・支援業務委託料等）

◎子育て支援の充実・・・・・・・・1億8980万4千円

・子育て応援給付金（新生児1人当たり10万円）

・保育料完全無料化（0歳～2歳児の保育料を無料化）

◎防災・防犯体制の充実・・・・・・・・3億4201万3千円

・和束保育園耐震改修事業（耐震・改修事業費等）

◎道路網の整備・・・・・・・・2億1796万1千円

・祝橋整備事業（工事請負費等）

・石寺橋整備事業（測量設計業務委託料等）

・町道撰原下島線整備事業（拡幅改良工事請負費等）

◎公共交通システムの充実・・・・4947万9千円

・路線バス対策事業（路線バス運行維持補助等）



第1回定例会主な議案

◆ 木屋辺地に係る公共的施設の総合整備計画の策定について

木屋地域の木津川護岸は脆弱な状態で、近年の局地的豪雨、異常出水などの対応として、木津川流域治水工事に伴い、平常時には高水敷となる部分を「和束町木津川かわまちづくり支援事業（国庫）」で整備を進め、併行して「木津川かわの駅構想」として「集いのスペース、体験の護岸、河川レクリエーション」等の河川修景護岸と風水害等にける住民の安心・安全な避難環境の整備を進める。

【整備計画】令和4年度から令和8年度までの5年間

〔一般質問〕きれいな水環境を創るための下水道等の整備を問う

問：公共下水道への接続を促進する取り組みと、今後の考えは

答弁：接続率は約70%で、高齢者世帯や独居世帯の未接続が見られ、接続を促す施策を検討する。また整備から20年経過した処理施設のストックマネジメント計画を立て、施設全体のあり方等、早期に戦略が組み立てられるよう進めたい。



問：下水道事業の継続のためにより多くの接続につながる対策が必要では

答弁：20年を過ぎた施設の今後の運営の仕方も含め検討したい。

問：下水道未整備地区の生活排水等処理の今後の取り組みは

答弁：浄化槽の普及を軸に各種施策の取り組みが重要、個人負担の関係や町財政など様々な観点から、京都府や関係機関と調整を図り生活環境の改善に努めたい。

問：公共下水道接続世帯と合併浄化槽世帯の個人負担額の格差があり、国の補助制度を活用した公共浄化槽の普及は図れないか

答弁：下水道料金は基本料金の世帯で年額約1万6千円、4人世帯で約6万7千円、浄化槽の場合7人槽の管理費と汚泥処理で約7万5千円となる。浄化槽の整備区域を明確にしながら、国の補助制度も見据え、公共浄化槽など住民が快適に暮らせる事務を進めたい。

問：高齢者等の年金生活世帯では浄化槽の管理費が大きな負担となる、汚水処理事業として事業の一元化により、個人負担額の公平化が図れないか

答弁：行政の在り方によって負担の違いは避けなければならない、補助制度とも絡めて全体を公共的に考え和束のあり方を検討する。

予算特別委員会質問

・西和束地区の西部簡易水道施設整備事業計画は

答弁：令和7年度着工を予定しているが、なるべく早く整備できるよう努力する。

・グリーンスローモビリティの運行ルートでもある町道上出丸塚線の拡幅改良工事を

答弁：石寺橋事業の次に上に登っていけるよう計画したい。

・石寺景観地区周辺来訪者の駐車場整備等交通対策を

答弁：駐車場等は区からの要請もあり用地交渉等手続きを進めたい。